

社会福祉法人 十百千会

就労継続支援B型事業所
ワークセンターゆきぞの
工賃向上計画

(平成27年度～平成29年度)

平成27年4月1日 作成

平成28年4月1日 一部改訂

第1章 法人の経営理念

十百千会は、障がい者福祉の向上を目的とし、社会福祉施設を運営するために昭和55年に設立された。

設立にあたっての理念は、障がい者も健常者も等しく社会に貢献し、自立した生活を送ることを支援するものである。

以来、設立の主旨に沿って、障害者入所施設を運営し現在に至っている。

就労継続支援B型事業所ワークセンターゆきぞのは平成22年に入所施設から移行し、①就労経験がある者であって、年齢や体力の面で一般企業に雇用されることが困難となった者、②就労移行支援事業を利用した結果、B型の利用が適当と判断された者、③①、②に該当しない者であって、50歳に達している者又は障害基礎年金1級受給者を対象として就労の機会の提供及び生産活動の機会の提供を通じて生産活動に係る知識の向上や維持を支援してきた。

十百千会は、「ゆめ」「よろこび」「ゆたかさ」の実現のため全力でサポートする新たな理念に則り、障がい者の自立した生活を支援するため就労継続支援B型事業所ワークセンターゆきぞのにおける工賃向上計画を策定する。

第2章 事業所の現状等について

1 利用者の状況

現在、『ワークセンターゆきぞの』の定員及び登録利用者数、平均障害支援区分は以下のとおりである。

定員	登録利用者数	平均障害支援区分	障害支援区分
40人	48人	1.6	区分1：2人 区分4：5人 区分2：14人 区分5：0人 区分3：10人 区分6：0人

※区分なし：17人

2 現在の作業の内容

現在工賃に算定している作業の内容としては以下のとおり

- ①下請け作業（タオル製品加工）
- ②農業（乾燥椎茸、茶の栽培・竹箒作り等）
- ③施設外活動
- ④下請け作業（お茶箱加工）
- ⑤ミニトマト栽培管理

3 支援体制の状況

職 種	員数	常 勤		非常勤	
		専従	兼務	専従	兼務
管理者	1		1		
サービス管理責任者	1	1			
目標工賃達成指導員	1	1			
生活支援員	3	1	2		
職業指導員	5		5		
管理栄養士	1		1		
調理員	2		2		

4 旧工賃向上計画（平成24年度～平成26年度まで）について

（1）旧工賃向上計画期間における、工賃向上に向けた取組みとその成果

①【取組み】

自動ミシンをフル回転するために、休み時間等は交代で機械を動かし一日の数量増をめざす。

【成果】

生産性の飛躍的な向上とご利用者の労働負荷の軽減に繋がり、安定的に仕事を受注できるようになり、ご利用者及び職員の生産活動に対する意欲が向上するとともに大幅な工賃の増加に寄与する結果となった。

②【取組み】

施設外活動の労働力提供のチラシを作成して、公共機関・組合・団体等に配布し、作業依頼を増やす。

【成果】

活動当初は年に数回程度の依頼であったものが、年々問い合わせの件数が増え、近隣の農家へのお手伝い、さらにはキャンプ場や公園広場の整備など様々な依頼が、定期的に舞い込むようになった。また、障がい者優先調達推進法の効果も相まって大幅に官公需の受注額を増やすことができた。

(2) 各年度の目標工賃と工賃の実績

(単位：円)

	H24 年度	H25 年度	H26 年度
平均工賃月額【目標値】	15,000円	17,000円	19,000円
平均工賃月額【実績値】	15,806円	17,515円	19,021円
平均工賃時間額【目標値】	117円	156円	173円
平均工賃時間額【実績値】	120円	142円	155円

(3) 各年度の目標工賃と工賃の実績

旧工賃向上計画（平成24年度～平成26年度）期間における平均工賃の目標値と実績値については上記（2）の表のとおりであったが原因としては以下の要因が考えられる。

(1) プラス要因

- ・職員間で工賃向上の意義を確認。
- ・課題や改善すべき点の検討。

5 これまでの取組みを通じて得た課題等

- (1) 下請け作業で加工賃が安いいため、自動ミシンをフル回転し、タオル端縫いの数量を上げることが必要である。
- (2) 自主製品の販路が少なく、生産量に対して販売量が少ないため、余剰在庫が発生している。
- (3) 利用者の能力を最大限に引き出すための支援の在り方。

第3章 今後の目標及び目標を実現するための取組み等

1 平成29年度の事業予想

現在の工賃を構成する各事業及び収支について、平成26年度と比較して、平成29年度は次のように変化していると予想する。

※別表の（1）、（2）を参照

(1) 平成26年度の事業（現状）

平成26年度工賃の原資（9,153,890円）中

勘定科目		合計	① タオル事業	② 農業事業
収 入	就労支援事業収入	12,496,410	9,495,062	3,001,348
	引当金戻入	0	0	0
	就労支援事業活動収入計	12,496,410	9,495,062	3,001,348
支 出	就労支援事業販売原価	3,347,354	2,656,834	690,520
	・期首商品たな卸高	9,180	0	9,180
	・当期就労支援事業製造原価（工賃を 除く）及び当期商品仕入れ高	3,347,354	2,656,834	690,520
	計	3,356,534	2,656,834	699,700
	・期末商品たな卸高	△14,014	△4,384	△9,630
	差 引	3,342,520	2,652,450	690,070
	販売費及び一般管理費	0	0	0
	徴収不能額	0	0	0
	引当金繰入	0	0	0
	就労支援事業活動支出計	3,342,520	2,652,450	690,070
就労支援事業活動収支差額＝工賃原資（A）		9,153,890	6,842,612	2,311,278

(2) 平成29年度の事業予想

平成29年度工賃の原資（10,560,000円）中

勘定科目		合計	① タオル事業	② 農業事業
収 入	就労支援事業収入	14,460,000	10,500,000	3,960,000
	引当金戻入	0	0	0
	就労支援事業活動収入計	14,460,000	10,500,000	3,960,000
支 出	就労支援事業販売原価	3,900,000	3,050,000	850,000
	・期首商品たな卸高	20,000	10,000	10,000
	・当期就労支援事業製造原価（工賃を 除く）及び当期商品仕入れ高	3,900,000	3,050,000	860,000
	計	3,920,000	3,051,000	860,000
	・期末商品たな卸高	-20,000	-10,000	-10,000
	差 引	3,900,000	3,050,000	850,000
	販売費及び一般管理費	0	0	0
	徴収不能額	0	0	0
	引当金繰入	0	0	0
	就労支援事業活動支出計	3,900,000	3,050,000	850,000
就労支援事業活動収支差額＝工賃原資（A）		10,560,000	7,450,000	3,110,000
増 減		1,406,110	607,388	798,722

2 目標工賃の設定

第2章及び本章1の事項を踏まえ、平成27年度から平成29年度までの目標工賃を次のとおり設定する。

(単位：円)

	H27年度	H28年度	H29年度
平均工賃月額【目標値】	19,500円	21,000円	22,000円
平均工賃日額【目標値】	150円	175円	183円

3 目標工賃達成のための取組み

3で設定した目標工賃を達成するために、今後、次のことに重点的に取り組み、当該重点取組み事項の年度ごとの実施計画を下記表のとおり定める。

- (1) 作業の効率化を行なったうえで、職員増員の検討。
- (2) 生産性を高めるため、自動ミシンの機械操作ができる職員の育成。
- (3) 施設外活動（施設外就労）の新規開拓と重点的な取り組み。
- (4) 新たな自動マシン購入の検討
- (5) 加工賃の値上げ交渉
- (6) ミニトマト栽培管理

	H27年度	H28年度	H29年度
(1) 作業の効率化を行なったうえで、職員増員の検討。	・採算の分析 ・生産性の分析	・課題や改善すべ点の検討 ・支援体制の強化	・支援体制の強化
(2) 生産性を高めるため、自動ミシンの機械操作ができる職員の育成。	・技術指導	・技術指導	・技術指導
(3) 施設外活動（施設外就労）の新規開拓と重点的な取り組み。	・労働力提供のチラシ作成及び配布	・依頼先の農繁期農閑期の分析	・自主生産と施設外活動の調整。
(4) 新たな自動マシン購入の検討	購入原資の検討	購入原資の検討	購入原資の確保
(5) ミニトマト栽培管理		栽培技術指導	販路検討・拡大

4 計画の達成状況及び評価

本計画については、各年度において、前年度の実績を踏まえ、達成状況を点検・評価し、その結果に基づいて計画の見直し等所要の対策を実施するものとする。